

# afimp.

輸入車♥スタイルアップカーマガジン

秋♥味のあるプロの技が輝く!

渋く、カッコ良く、大人に! ヨーロピアンを骨の髄まで理解したインプ特選プロショップカー大特集!

## PRO SHOP SPECIAL CARS

海外からの新鮮直送ネタ!

**WORLD TUNER'S SCOOP**

A.W.E. Tuning Porsche 997 Twin Turbo project 700S

KELLENNERS sports BMW E90/E91

スペシャルカーAVの祭典!

**MES2007**

輸入車詳細レポート  
& 特別スタコ!

VOLVO C30

VW GOLF VARIANT

ZECA G5&E46M3

CARACTER AUDI A6

TECHART PORCHE etc...

**NOVITEC**

マセラッティまでも手掛ける  
ジャーマン・ラテン・チューナー

**COX G14TS**

ツインチャージャーTSIにメスを入れる



# THE

## ラテンの情熱とジャーマンの正確さが 作り上げた魅惑のコンプリート

南ドイツののどかな街、シュテットテンに居を構えるチューナー、ノヴィテック。  
フィアットグループが抱えるアルファロメオやフェラーリなどをベースに、  
よりドライビングファンを感じるクルマに仕立て上げる。  
どのクルマにも共通して込められた作り手の情熱を感じる。

<http://novitec.net/>

REPORT: 熊崎圭輔 Kelsuke KUMASAKI (af imp.)

PHOTO: 田村 弥 Wataru TAMURA

INTERPRETATION&COORDINATION: 辻 寛 Hiroshi TSUJI (Hiroshi TSUJI OFFICE)

STYLE UP REPORT  
from  
**G**ERMANY

NOV



↓足もとのマットにはNOVITECの文字が入る。オープンモデルだからこそ、インテリアには気を使いたい。やっぱり「オシャレは足もとから」



↑デュアルテールを左右出しとするノビテックのエキゾースト。サイズは115×85のオーバル。大口径ながら、スパイダーのテイストを崩さないデザイン



↑ホイールはATP製のタイプN9。鍛造でサイズは8.5×20。リムの輝きが華を添えている。サスペンションは前後共に車高減衰力調整式となる



↑幌をオープンにしてのドライブこそスパイダーが本領を発揮するシーン。低音が強調されたエキゾーストノットが走りの楽しみを倍増させてくれる。流してもよし、右足を力を入れてもまたよしだ

### 気持ちよく流すもよし シビアに攻め込むもまたよし

アルファロメオがリリースした久しぶりのオープンモデル、スパイダー。直列4気筒2.2リッターのFFモデルをベースに、ノビテックが手を入れたのは、フロントスポイラー、サスペンション、ホイール、エキゾーストという、実にあっさりとしたメニュー。エッジの効いたフロントスポイラーは、緊張感のあるマスクを演出。スパイダーと言えども軟派ではないというアピールか。足もとは20インチのメッシュホイール、タイプN9を装着。足回りには車高調整式となるサスペンションキットがおこなわれている。エンジン自体にはとくに変更を行わず、リアマフラーのみを交換。それでもキレイに回転を上げていくのは、このエキゾーストのマッチングがよい証拠だろう。日本には導入されていないIMTでのドライブはともファンな経験だった。

NOVITEC  
Alfa Romeo Spider 2.2

## 上質で高機能なクルマへと チューニングの方向をシフト

'89年にその歴史をスタートさせたノヴィテック。'03年にデビューしたブランド、ノヴィテック・ロッソが成功を収め、すっかりフェラーリチューナーとしてそのポジションを不動のものにしているが、もちろん現在でもアルファロメオやフィアットといった、イタリアのフィアットグループが生産するクルマをチューニングのベースとし、情熱的なクルマを作り続けている。

本体であるノヴィテックの最新作がこのスパイダーだ。一時の、NOSやツインターボといった何でもアリのな過激なチューニングは影を潜め、シンプルで高機能というポイントに狙いを定めたチューニングが施されている。

シャープに描き出されたフロントスポイラーは巨大なエアダム形状にまとめ、存在を主張。もちろんスパイダーの持つスポーツ性はまったくスポイルされることなく、むしろ引き上げられている。足回りは減衰力・車高調整が可能で、そこにラフメッシュの20インチホイールが組み合わされている。そしてエキゾースト。ノーマルの角テールに対して、ノヴィテックはオーバル。リアスポイラーぎりぎりまで径を広げ、テールにアクセントを追加。今後ティフューザーがラインアップに加わる予定だとか。

このスパイダーに施されているメニューを見ても、ノヴィテックが路線転換を図り、上質さやエレガントといったメイクへとシフトしているのがわかるだろう。もちろん見た目が変わるだけの、オプティカルチューナーではない。しっかりとした機能の裏打ちがあつてこのスタイリング。走り、ピシユアル、そして音。すべてを引き上げてこそ、オーナーは快楽に浸れるのだ。

STYLE UP REPORT  
from  
**G**ERMANY  
NOVITEC





↓ステンレス製のエキゾーストシステムは、ノヴィテックらしい太めのサウンド。テールはいたずらに太くせず83φのデュアルとなっている



←鍛造のNM1と呼ばれるマセラッティ用のホイール。フロント9J、リア10.5Jの20インチ。足もとはこれでスポーティエレガントに仕上がった

### 初となるマセラッティメニューは ハイクラス・スポーツ・サルーン

ノヴィテックが初めて手掛けたマセラッティは、現行型のクワトロポルテ。ローングノーズの4ドアサルーンに与えられたのは、ホイールと足回りのみ。それでもKWとのコラボレーションによる減衰力・車高調整式のサスペンションが生み出すジャストな車高と、オリジナルホイールが生み出すサイドビューが、このクワトロポルテがタダモノではないということをアピールする。エンジンはファインチューニングが施されて413hpを発揮。4ドアサルーンのパワーとしては、十二分なスペックだろう。家族を乗せているときは紳士の仮面を被り、独りの時はその仮面を脱ぎ捨ててワイルドに。そんな二面性を備えた、ハイクラス・スポーツ・サルーンに仕立てられている。



## NOVITEC TRIDENTE Maserati Quattroporte

## 跳ね馬に次いで手掛けたプロジェクトは三叉矛だった

今年、ノヴィテックが手掛けた新しいブランドが、このマセラッティをベースとするノヴィテック・トリデンテ。英語読みではトライデント。いわゆるマセラッティのあの三叉矛のことだ。「ファイアットグループのラインアップを見てもわかる通り、ファイアット／アルファロメオ／マセラッティ／フェラーリと、各ブランドが階層のようになっています。ですからアルファロメオとフェラーリの中間に位置するマセラッティを対象としたチューニングブランドを開始するのはごく自然なことなのです」とマーケティング・マネージャーのメルツドルフ氏は語る。ノヴィ

テックはファイアットグループと歩みを揃えている。だからこそ、ここでトリデンテというワケなのだ。

「人間は残念ながら歳を取ります。今まで乗っていたファイアットやアルファロメオを卒業したヒトが、次に進む時にマセラッティを選ぶならば、我々はそれに対してメニューを用意すべきでしょう。もちろん今までファイアットやアルファロメオ、フェラーリで培ってきた技術が、このトリデンテでも活かされているの言ってもありません」

第一作目となったクワトロポルテは、サルーンという性格に、ノヴィテックの持つスポーツというキーワードを巧みに織り込んだ。普段は紳士だが、時折ワイルドな仕草や振る舞いを見せる、大人のオトコ。そんな仕立ての絶妙なバランスが、このクルマから感じられる。ラテンの情熱とゲルマンの正確さ。その2つが昇華したハイクラス・スポーツ・サルーンの誕生だ。

STYLE UP REPORT  
from  
GERMANY  
NOVITEC  
Tridente



# エモーションは変わらない それがノヴィテックのアプローチ

「今回のノヴィテック・トリデンテで、我々は3つのブランドを抱えることになりましたが、そのどれもがとても大事なものです。フェラーリやマセラッティのお客様でも、そしてファイアットやアルファロメオのお客様でも、すべてイコルに対応させていただいています。チューニングを施すエモーションは、どのブランドでも変わることはありませんので、ノヴィテック代表のハーゲドルン社長はこう語る。

「お客をチューナーが選ぶのではなく、あくまでも選んでいただくという立場に我々はいます。いきなりフェラーリを始めたチューナーが軒並み評判を落としているのは、そのもの自体に厚みがないからでしょう。我々の積み上げてきた歴史と技術はそんなところにも生きていると思います。だからこそ最新ナクノロシーの塊であるフェラーリの新型モデルに手を入れてチューニングを施し、カスタマーへと届けることができるのだらう。

このところノヴィテックは過激なコンセプトモデルをリリースしなくなりました。もちろんフェラーリにおいては、ツインコンプレッサーというノヴィテック・ロッソ独特のチューニングメニューを用意してはいるが、その仕様は決して奇烈なじゃや馬的乗り味ではなく、とても扱いやすく乗りやすいものばかりだ。スパイシートでハンチの効いた過去のノヴィテックのチューニングカラーを知る筆者としては、少し物足りなさを感じてしまうのも事実。

「ヨーロッパにおいてクルマの嗜好が変わってきたというのが、我々のチューニングが変化してきた理由のひとつとして挙げられるかもしれませんが、デイズルエンジンが全盛というのは言

うまでもありませんし、純正車両が高性能化してきていることも要因ですね。ガソリンエンジンに過給器を追加してモアパワーを狙うという需要自体が少なくなりました」過激なコンセプトモデルを使って、ノヴィテックはイタリア車をベースとしたチューニングを行うブランドであるというプロモーションの段階は終了し、ファイアットグループのラインアップをカバーするジャーマンチューナーという立ち位置で、クルマを作るという時期にきたのだらう。

「でも、エクストリームな感覚は忘れてはけませんよ。次にリリースを予定しているブランドは、ピリツと辛いクルマに仕上がると思っています(笑)「ブランドは2つのヴァージョンが企画されていて、スパイシーなデザインのボディワークが施されたモデルと、シンプルで機能的なモデルが用意されるという。やはり「情熱」がキーワードなのだ。

さて、次回作の話が出たところで気になるのが今後の展開。3つのブランドそれぞれ、新しいコンプリートモデルの計画はあるのだろうか？

「まずフェラーリですが、599をツインコンプレッサー化するために現在開発を続けています。今度のフランクフルトショーでお披露目できるでしょう。マセラッティの次回作はクーペ、ノヴィテックはブラーボを、それぞれ予定しています。この2台は、ファンクショナルなエアロパーツや足回りなどを用意する予定です」

実性能に調和したチューニングを施すことで十分に乗りやすく、それでいて乗り手のパッションをかき立てるクルマに仕立てる。これがノヴィテックの3つのブランドの根底に共通して流れるマインドなのだ。

↑リアスカートのアールに沿うようなテール。サイズは90φのデュアル、アイドリングでは太く力強く、高回転では美しい音色を奏でる



↓テールレンズはブラックタイプを装着。これもノヴィテックが用意しているパーツ。トーンをボディと合わせることで独特のルックスに



↑足回りはKWとノヴィテックの共同開発による減衰力・車高調整式。ホイールはNF2。サイズはフロント9J×19、リア12J×20をセット

## ワインディングも駆け抜ける ハイスピードグランドツアラー

ノヴィテック・ロッソが手掛けた612スカリエッティ。グランドツアラー的な性格を持つこのクルマだが、セットされたノヴィテック&KWの足回りやハイパフォーマンスブレーキなどにより、ツイスティでタイトなワインディングロードでも、その巨体を感じさせることはなかった。もちろんアウトバーンなどの高速ステージは得意中の得意。ノーマルからわずかにパワーアップされ555hpを解放すれば、スカリエッティは、文字通り矢のように突き進んでいく。今回の取材では、テストで入庫していた360チャレンジストラダーレのツインチャージャーモデルにも少し試乗できたが、これはまた別次元のクルマ。600hpを遙かに超えるパワーでのフル加速は、今まで未体験のものであった。それでいて扱いやすいのだから不思議なのだ。





↑作業を待つF430。細部にまで渡ってストリップされ、ノビテックのパーツへと変更されていく。もちろん一台一台手作業だ



↑スムーズレザーは60色、アルカントラは80色をそれぞれ用意している。自分だけのクルマに仕立てるためのラインアップ



↑ノビテック代表のハーゲドルン社長(右)とマーケティング・マネージャーのメルツドルフ氏(左)。「イタリア車をもっと楽しんでもらいたい」と語ってくれた

STYLE UP REPORT  
from GERMANY  
**NOVITEC**  
**Rosso**

**NOVITEC ROSSO**  
**Ferrari 612 Scaglietti**

